

2025年度 学科別授業科目一覧表（実務経験表記あり）

課程：医療専門課程

学科：臨床検査学科

NO.	授業科目	学年	授業時間数	単位	必須・選択	講義・実習	実務経験
32	医学英語	2	30	2	必修	講義	有
33	保健体育	2	30	1	必修	実習	有
34	公衆衛生学	2	30	2	必修	講義	有
35	医療福祉概論	2	15	1	必修	講義	無
36	臨床検査医学Ⅰ	2	30	2	必修	講義	有
37	臨床検査医学Ⅱ	2	30	2	必修	講義	有
38	臨床血液検査学	2	30	2	必修	講義	無
39	臨床血液検査学実習	2	30	1	必修	実習	有
40	病理学実習	2	30	1	必修	実習	有
41	病理組織細胞学	2	30	2	必修	講義	有
42	病理組織細胞学実習	2	30	1	必修	実習	有
43	臨床化学Ⅰ	2	30	2	必修	講義	有
44	臨床化学Ⅱ	2	30	2	必修	講義	有
45	臨床免疫検査学	2	30	2	必修	講義	有
46	臨床化学・臨床免疫学実習	2	45	1	必修	実習	有
47	遺伝子染色体検査学	2	30	2	必修	講義	有
48	輸血移植検査学	2	45	3	必修	講義	有
49	輸血検査学実習	2	30	1	必修	実習	有
50	臨床微生物検査学実習	2	60	2	必修	実習	有
51	生理機能検査学Ⅲ	2	30	2	必修	講義	有
52	生理機能検査学Ⅳ	2	30	2	必修	講義	有
53	生理機能検査学実習	2	60	2	必修	実習	有
54	予防医学総論	2	15	1	必修	講義	有
55	関係法規	2	15	1	必修	講義	無
56	医療安全管理学	2	30	2	必修	講義	有
57	バイオ技術講座	2	15	1	必修	講義	有
58	国家試験準備講座	2	30	2	必修	講義	有

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 前期	
講義区分		授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎	必修	講義	医学英語		塚田 敦子	有	2 単位 30 時間
【授業の到達目標及びテーマ】							
医療人として不可欠な、身体の部位や機能・医療と健康に関する基本的な専門用語の英単語を知り、医療分野の英文を読みこなせるようになることを目標とする。							
【講義概要】							
VocabularyとReadingに重点を置き、まず基本的な人体の構造・機能・疾患について英文で理解を深める。次に尿と便に関する一般検査、最後に感染症と生活習慣病の原因・症状・予防法に関する英文を読解する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	医学英語の構成、医学専門用語（体・臓器・数・色・学問・診療科・スタッフ etc.）						
2	Circulatory System & Disorders（循環器系のしくみと疾患）						
3	Blood & Disorders of the blood（血液と血液疾患）						
4	Respiratory System & Disorders（呼吸器系のしくみと疾患）						
5	Digestive System & Disorders（消化器系のしくみと疾患）						
6	Urinary System & Disorders（泌尿器系のしくみと疾患）						
7	A Story of Pee ①（尿①）						
8	A Story of Pee ②（尿②）						
9	A Story of poop ①（便①）						
10	A Story of poop ②（便②）						
11	A Story of Viral Infectious Disease ①（ウイルス感染症①）						
12	A Story of Viral Infectious Disease ②（ウイルス感染症②）						
13	検査医学に関係ある英略語						
14	A Story of Lifestyle Disease ①（生活習慣病①）						
15	A Story of Lifestyle Disease ②（生活習慣病②）						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合			80%		20%		100%
(補足)		※授業で毎回約20分間の小テストを実施する					
【教員紹介】							
臨床検査技師として、虎の門病院臨床化学検査部で7年間、ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社で3年間の実務経験を有する。							
【教科書・参考文献】							
【参考書】・やさしい医学英語 Introduction to Medical English（医学書院） ・Laboratory Medicine Illustrated（シスメックス） ・ホスピタル・イングリッシュ 2 Vital Signs 2（南雲堂）							

東京電子専門学校

開講課程			開講学科	開講年度		履修対象
医療専門課程			臨床検査学科	2025		2 年 前期
講義区分		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数
基礎	必修	実習	保健体育	山木 久美	有	1 単位 30 時間
【授業の到達目標及びテーマ】						
ストレッチにより柔軟性を高めたり、筋力トレーニングを行ったりすることで、自律神経のバランスを整え、心身ともに調和のとれた、活力ある学生生活が送れるようにする。また、軽井沢セミナーハウスや公共体育館等で校外学習を行い、様々なスポーツを通して親睦を深める。また、性行為感染症について学ぶ。						
【講義概要】						
STI（性感染症）講習では、性感染症の正しい知識をみにつける。						
回	授業計画及び学習の内容					
1	柔軟運動 リズム運動 体力測定① 整理運動（ストレッチ）					
2	柔軟運動 リズム運動 筋力トレーニング 整理運動（ストレッチ）					
3	柔軟運動 リズム運動 筋力トレーニング 整理運動（ストレッチ）					
4	柔軟運動 リズム運動 筋力トレーニング 整理運動（ストレッチ）					
5	柔軟運動 リズム運動 筋力トレーニング 整理運動（ストレッチ）					
6	柔軟運動 リズム運動 筋力トレーニング 整理運動（ストレッチ）					
7	柔軟運動 リズム運動 筋力トレーニング 整理運動（ストレッチ）					
8	柔軟運動 リズム運動 体力測定② 整理運動（ストレッチ）					
9	軽井沢研修					
10	軽井沢研修					
11	軽井沢研修					
12	軽井沢研修					
13	軽井沢研修					
14	STI（性行為感染症）講習					
15	STI（性行為感染症）講習					
【成績評価方法】						
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）
割合				50%	50%	
(補足)						
【教員紹介】						
臨床検査技師として日本海総合病院や鶴岡市立荘内病院にて約8年間勤務経験 病理診断科での実務経験あり。 鶴岡市民スポーツクラブ「レッツ器械体操」にて約7年間指導員の経験あり。						
【教科書・参考文献】						
【参考書】 関節の動きがよくわかる DVD可動域ストレッチ&トレーニング事典						

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門基礎 必修	講義	公衆衛生学		北山 茂	有	2 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
保健・医療・福祉の制度を学修し、地域社会の健康を予防医学、環境の改善、健康教育の推進を通して現代の公衆衛生を理解することを目標とする。							
【講義概要】							
健康に悪影響を及ぼす環境や行動、社会的要因を取り除き、健康障害を予防することを学修する。さらに、行政や企業などの組織を通して予防や社会復帰を重視し、人々の健康状態と QOL の向上についても修得する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	公衆衛生の意義 ・ 公衆衛生活動 ・ 健康の概念 ・ 予防医学の概念						
2	衛生行政 ・ 衛生行政 ・ 医療制度 ・ 社会保障, 社会福祉国際保健						
3	国際保健 ・ 世界保健機関 ・ プライマリヘルスケア ・ ヘルスプロモーション ・ S D G s						
4	衛生統計 ・ 人口生態統計 ・ 人口動態統計 ・ 疾病統計 ・ 障害統計						
5	疫学 ・ 疫学と予防医学 ・ 疫学指標 ・ 疫学研究方法 ・ スクリーニング						
6	母子保健・学校保健 ・ 母の健康 ・ 新生児, 乳児, 小児の健康 ・ 保健管理 ・ 学校における感染症						
7	成人保健 ・ 生活習慣病の予防 ・ がん ・ 心疾患 ・ 脳血管疾患 ・ 糖尿病						
8	試験及び解説						
9	高齢者保健 ・ 老人保健法 ・ 介護保険法 ・ 高齢者医療確保法 ・ 認知症問題 ・ 在宅医療						
10	精神保健 ・ 主な精神, 神経疾患 ・ 精神保健福祉法 ・ アルコール中毒 ・ 自殺						
11	環境と健康 ・ 屋内環境 ・ 環境リスクの評価 ・ 環境汚染 ・ 公害						
12	感染症（1）・感染の成立要因 ・ 新興感染症, 再興感染症						
13	感染症（2）・検疫感染症 ・ 感染予防 ・ 予防接種						
14	産業保健 ・ 労働災害と業務上疾病 ・ 労働衛生管理 ・ 一般健康診断, 特殊健康診断						
15	食品衛生 ・ 栄養と健康 ・ 食品衛生行政 ・ 食中毒 ・ 食品添加物						
16	試験及び解説						
【成績評価方法】							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（	）	合計
割合	90%			10%			100%
(補足)							
【教員紹介】							
東京女子医科大学病院で臨床検査技師として6年間勤務経験有り。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】最新臨床検査学講座 公衆衛生学 （医歯薬出版）							
【参考書】国民衛生の動向（厚生統計協会）							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門基礎 必修	講義	医療福祉概論		須崎 由美	無	1 単位 15 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
保健・医療・福祉の概念・制度について理解し、患者を取り巻く一スタッフとしてどのように患者に向き合うべきなのかを考えられる力を身につけることを目標とする。							
【講義概要】							
人々の心身の健康を身体的、精神的、社会的側面で総合的にどのように捉え、患者の抱える苦痛を理解し個別に対応できるように、様々な事例、シミュレーションを取り入れながら患者の心理について学ぶ。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	医療制度について						
2	医療制度について						
3	患者の心理①（がん患者の体験）						
4	患者の心理①（がん患者の体験）						
5	ターミナルケアについて						
6	患者の心理②						
7	グループワーク②（終末期患者の希死念慮への対応）						
8	発表もしくは個別にて課題提出						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（出席点・提出物）	合計
割合		50%				50%	100%
(補足)							
【教員紹介】							
半年間の病院勤務後、アロカ(株)にてMEG・ラジオ波焼灼術の営業技術職として勤務。							
【教科書・参考文献】							
【参考書】最新臨床検査学講座 保健医療福祉概論（医歯薬出版）							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	講義	臨床検査医学Ⅰ		塚田 敦子	有	2 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
疾患の診断と治療には様々な検査が必要である。検査技師は担当する検査の目的・意義を理解し、データの解釈について十分な知識が要求される。検査方法の原理や詳細に関しては各専門教科の知識が必要であり、対応する教科の復習を促す。講義の区切りで、それぞれのテーマの国家試験過去問題を提供し、Key Point を確認する。							
【講義概要】							
授業では特に検査技師が理解しておくべき疾患について、原因・病態・症状ならびに関連する検査所見を学習し、診断基準や類似疾患との鑑別についても理解を深める。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	診断と臨床検査の意義						
2	循環器疾患①						
3	循環器疾患②						
4	呼吸器疾患①						
5	呼吸器疾患②						
6	消化器疾患①						
7	消化器疾患②						
8	中間試験および解説						
9	肝・胆道疾患①						
10	肝・胆道疾患②						
11	感染症①						
12	感染症②						
13	腎疾患①						
14	腎疾患②						
15	電解質・酸塩基平衡						
16	期末試験および解説						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		100%					100%
(補足)							
【教員紹介】							
臨床検査技師として、虎の門病院臨床化学検査部で7年間、ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社で3年間の実務経験を有する。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】イラストで病気を理解するビジュアルノート MEDIC MEDIA							
【参考書】臨床検査講座 臨床医学総論 臨床検査医学総論 医歯薬出版							
病気がみえる（シリーズ①～⑨）MEDIC MEDIA)							
ゼロからわかる疾患別検査値 読みこなし（成美堂出版)							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門 必修	講義	臨床検査医学Ⅱ		塚田 敦子	有	2 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
疾患の診断と治療には様々な検査が必要である。検査技師は担当する検査の目的・意義を理解し、データの解釈について十分な知識が要求される。検査方法の原理や詳細に関しては各専門教科の知識が必要であり、対応する教科の復習を促す。講義の区切りで、それぞれのテーマの国家試験過去問題を提供し、Key Point を確認する。							
【講義概要】							
授業では特に検査技師が理解しておくべき疾患について、原因・病態・症状ならびに関連する検査所見を学習し、診断基準や類似疾患との鑑別についても理解を深める。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	内分泌疾患①						
2	内分泌疾患②						
3	代謝異常①						
4	代謝異常②						
5	腫瘍マーカー・緊急時の対応						
6	遺伝病・中毒症						
7	中間試験および解説						
8	脳・神経・筋肉疾患①						
9	脳・神経・筋肉疾患②						
10	免疫病①						
11	免疫病②						
12	免疫病③						
13	血液疾患①						
14	血液疾患②						
15	血液疾患③						
16	期末試験および解説						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（	合計
割合		100%					100%
(補足)							
【教員紹介】							
臨床検査技師として、虎の門病院臨床化学検査部で7年間、ブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社で3年間の実務経験を有する。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】 イラストで病気を理解するビジュアルノート MEDIC MEDIA							
【参考書】 臨床検査講座 臨床医学総論 臨床検査医学総論 医歯薬出版 、 病気がみえる。(シリーズ①～⑨) MEDIC MEDIA							
ゼロからわかる疾患別検査値 読みこなし (成美堂出版)							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象		
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 前期		
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数		
専門	必修	講義		臨床血液検査学		堀江 巧	無	2 単位 30 時間
【授業の到達目標及びテーマ】								
一年次にて学習した血液学を基礎として、赤血球系・白血球系・血小板系・凝固線溶系に関連した各種疾患について、原因や症状・治療法などを説明し、検査との関連についても理解する。								
【講義概要】								
血液検査は、貧血・白血病・血友病をはじめとする血液疾患の診断・治療・予後の判定にきわめて重要であるため、それに伴う病気の知識と検査の意義を理解させる。								
回	授業計画及び学習の内容							
1	赤血球系疾患（基準値・形態異常・封入体）							
2	赤血球系疾患（貧血の大別）							
3	赤血球系疾患（小球性貧血）							
4	赤血球系疾患（正球性貧血）							
5	赤血球系疾患（大球性貧血・赤血球増加症）							
6	試験Ⅰ・白血球系疾患（基準値・形態異常・封入体）							
7	白血球系疾患（増加・減少・機能異常）							
8	白血球系疾患（急性白血病）							
9	白血球系疾患（慢性白血病・悪性リンパ腫）							
10	白血球系疾患（MDS・M 蛋白血症）							
11	試験Ⅱ・血管系・血小板系疾患（アレルギー性紫斑病・増加/減少症・機能異常）							
12	血小板系疾患（TTP・ITP・VW病）							
13	凝固系疾患（VtK 欠乏症・凝固因子欠乏症）							
14	凝固系疾患（血友病・APS）							
15	線溶系疾患（一次線溶異常・DIC）							
16	試験Ⅲ・まとめ							
【成績評価方法】								
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（出席点）	合計	
割合		100%					100%	
(補足) 項目ごと3回に分けて試験を行う。								
【教員紹介】								
臨床検査技師免許取得後46年間、臨床検査技師教育に携わる。								
【教科書・参考文献】								
【教科書】病気が見える（血液） メディックメディア 土屋 達行 血液細胞ノート 文光堂 巽 典之								

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 前期	
講義区分		授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数
専門	必修	実習	臨床血液検査学実習		堀江・大田和	有	1 単位 30 時間
【授業の到達目標及びテーマ】							
採血手技を習得し、学生自身の検体やコントロール血漿などを用いて赤血球系・白血球系・血小板・凝固・線溶系に大別し、実習を行う。教科書に書かれた実習内容を中心として、必要な資料を配布し動画使って実習の流れを理解させる。項目ごとに テーマをもうけ、個人やグループで実習を行う。							
【講義概要】							
資料を配布して実習に必要な内容を説明し、動画による手技を見せて実習を行う。全項目実習終了後の筆記試験やスライド試験また未知検体を使って判定する。最後に実習ノートを提出させ評価する。 ※1回2コマ							
回	授業計画及び学習の内容						
1	A 貧血検査（Ht/Hb） B 貧血検査（Ht/Hb）						
2	A 血球数算定（RBC／WBC） B 血球数算定（RBC／WBC）						
3	A 赤沈/赤血球抵抗試験 B 赤沈/赤血球抵抗試験						
4	A 血液塗抹・普通染色 B 血液塗抹・普通染色						
5	A 正常血球・異常血球の観察 B 正常血球・異常血球の観察						
6	A 一次止血（血小板数算定・血小板停滞能検査） B 一次止血（血小板数算定・血小板停滞能検査）						
7	A 凝固検査Ⅰ（Ca再加試験・APTT） B 凝固検査Ⅰ（Ca再加試験・APTT）						
8	A 凝固検査Ⅱ（PT・フィブリノゲン量） B 凝固検査Ⅱ（PT・フィブリノゲン量）						
9	筆記・スライド試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	ノート	スライド	平常点	その他（実技）	合計
割合 （補足）		60%	30%	10%			100%
【教員紹介】							
堀江：臨床検査技師免許取得後、45年間、病理検査や血液検査などの教育に携わっている。 大田和：自衛隊中央病院及び市ヶ谷共済組合診療所において、臨床検査技師として化学検査・微生物学検査に従事していた。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】臨床検査学講座 血液検査学（医歯薬出版）、血液細胞ノート（文光堂）							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門	必修	実習		病理学実習	堀江・山木	有	1 単位 30 時間
【授業の到達目標及びテーマ】							
病理組織標本を作成するための基本的技術を習得することを目的とする。							
【講義概要】							
本実習は、病理組織標本観察に不可欠な臓器切り出し・固定・脱水・包埋・薄切・H E 染色・封入の過程を理解するため、各自一連の過程を行い、作成した標本を提出する。併せて病理組織細胞学実習用の染色液を作成し、染色した標本をスケッチする。 ※1回2コマ							
回	授業計画及び学習の内容						
1	A ブロック作成（切り出し・脱水・包埋・ブロック台装着） B ブロック作成（切り出し・脱水・包埋・ブロック台装着）						
2	A 病理組織細胞学実習標本スケッチ（H・E）・試し染め B 病理組織細胞学実習標本スケッチ（H・E）・試し染め						
3	A 病理組織細胞学実習標本スケッチ（masson）・試し染め・薄切 B 病理組織細胞学実習標本スケッチ（masson）・試し染め・薄切						
4	A 病理組織細胞学実習標本スケッチ（EVG）・試し染め・薄切 B 病理組織細胞学実習標本スケッチ（EVG）・試し染め・薄切						
5	A 病理組織細胞学実習標本スケッチ（鍍銀）・試し染め・薄切 B 病理組織細胞学実習標本スケッチ（鍍銀）・試し染め・薄切						
6	A 病理組織細胞学実習標本スケッチ（PAM）・試し染め・薄切 B 病理組織細胞学実習標本スケッチ（PAM）・試し染め・薄切						
7	A 病理組織細胞学実習標本スケッチ（PAS・アルシアン青）・試し染め・薄切 B 病理組織細胞学実習標本スケッチ（PAS・アルシアン青）・試し染め・薄切						
8	A 病理組織細胞学実習標本スケッチ（コンゴ赤・ベルリン青）・試し染め・薄切 B 病理組織細胞学実習標本スケッチ（コンゴ赤・ベルリン青）・試し染め・薄切						
9	A 病理組織細胞学実習標本スケッチ（神経染色）・試し染め B 病理組織細胞学実習標本スケッチ（神経染色）・試し染め						
【成績評価方法】							
評価項目		標本課題	スケッチ	レポート	平常点	その他（出席点）	合計
割合		50%	40%		10%		100%
(補足)							
【教員紹介】							
堀江：臨床検査技師免許取得後、45年間、臨床検査技師教育に携わる。 山木：臨床検査技師として日本海総合病院や鶴岡市立荘内病院にて約8年間勤務経験(病理診断科での実務経験)あり。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】新編臨床検査講座 病理組織細胞学（医歯薬出版） 組織アトラス - 正常と病変 -（医歯薬出版）							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門	必修	講義	病理組織細胞学		中山 美咲	有	2 単位 30 時間
【授業の到達目標及びテーマ】							
・細胞診の基本的な概念と技術を理解する。 ・講義と実習を通して、細胞診業務の流れや重要性を把握する。 ・細胞診業務の魅力を体感し、実践に向けた意欲を高める。 ・細胞診を通じて医療現場での役割やチーム医療の意義を学ぶ。							
【講義概要】							
細胞診断を行うための基礎となる各種異常細胞の特徴 、特に腫瘍細胞について教授し、診断に必要な標本作製技術を併せて習得する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	細胞診断学総論（腫瘍病理学・関係法規）						
2							
3	細胞診断学各論（呼吸器系）						
4							
5	細胞診断学各論（婦人科系）						
6							
7	細胞診断学各論（体腔液その他）						
8							
9	細胞診断学実習（呼吸器）						
10							
11	細胞診断学実習（婦人科）						
12							
13	細胞診断学実習（体腔液その他）						
14							
15	細胞診染色実習（パパニコロウ染色）						
16							
17	期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（出席点）	合計
割合		80%		20%			100%
(補足)							
【教員紹介】							
防衛医科大学校病院の検査部病理検査室で11年間勤務し、細胞検査士としては8年間細胞診断を行なっている。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】臨床検査講座 病理組織細胞学（医歯薬出版） 組織アトラス（医歯薬出版）							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	実習	病理組織細胞学実習		廣井・山木・堀江	有	1 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
病理組織標本作成技術を学ぶ。病理診断に用いられる各種染色の目的とその染色態度から疾患の病理組織像を理解することを目標とする。							
【講義概要】							
病理診断に用いられる各種染色の目的とその染色態度や疾患の病理組織像を中心に学習する。又病理解剖やその保存法並びに分子生物学の病理学への応用など最近のトピックスも交えて講義し、時流に沿った病理学を教授する。 ※1回2コマ							
回	授業計画及び学習の内容						
1	A HE染色 B HE染色						
2	A 結合組織染色Ⅰ（MT染色）・講義 B 結合組織染色Ⅰ（MT染色）・講義						
3	A 結合組織染色Ⅱ（EVG染色） B 結合組織染色Ⅱ（EVG染色）						
4	A 結合組織染色Ⅲ（鍍銀染色） B 結合組織染色Ⅲ（鍍銀染色）						
5	A 結合組織染色Ⅳ（PAM染色） B 結合組織染色Ⅳ（PAM染色）						
6	A 粘液・多糖類染色（アルシアン青・PAS染色）・講義 B 粘液・多糖類染色（アルシアン青・PAS染色）・講義						
7	A アミロイド・鉄染色（コンゴ-赤・ベルリン青染色）講義 B アミロイド・鉄染色（コンゴ-赤・ベルリン青染色）講義						
8	A 神経染色(Bodian・KB染色）講義 B 神経染色(Bodian・KB染色）講義						
9	A 試験 B 試験						
	評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
	割合	80%		20%			100%
(補足)							
【教員紹介】							
廣井・防衛庁防衛医科入子校病理学第一講座にて研究技術員や教員助手を務め、平成28年より新渡戸文化短期入子臨床検査学科で教鞭をとる（常勤）。病理組織標本作製技術のスペシャリストである。現在は順天堂大学医療科学部教授を務							
【教科書・参考文献】							
【教科書】最新編臨床検査講座 病理学/病理検査学（医歯薬出版） 組織アトラスー正常と病変ー（医歯薬出版）							

東京電子専門学校

開講課程			開講学科	開講年度		履修対象	
医療専門課程			臨床検査学科	2025		2 年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	講義	臨床化学Ⅰ		大田和 伸裕	有	2 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
電解質、糖質、脂質、タンパク質などの歴史的背景、体内代謝と臨床的意義測定原理について、および分析機器の取り扱い、精度管理について習得する。							
【講義概要】							
臨床化学は疾患の診断、治療方針の決定または予後の判定など臨床目的に応じた生体情報提供する学問および技術であり、分析化学、機器分析学、病態生化学、臨床医学を背景に進歩した学問である。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	プロローグ（授業の進め方、注意事項、成績評価法） 生命のメカニズム						
2	生物化学分析の原理と方法（分光光度分析法／蛍光分析法／化学発光分析法）						
3	生物化学分析の原理と方法（クロマトグラフ法／電気泳動法／質量分析法）						
4	生物化学分析の原理と方法（免疫化学的分析法／電気化学分析法）						
5	生物化学分析の原理と方法（酵素的分析法／自動分析法／POCT）						
6	無機質（水と無機質の調整および代謝）						
7	無機質（無機質の検査）						
8	中間試験及び解説						
9	糖質（糖質の構造と機能／糖質の代謝）						
10	糖質（糖質の検査）						
11	脂質（脂質の構造と機能／脂質の代謝）						
12	脂質（脂質の検査）						
13	タンパク質（アミノ酸とタンパク質の構造と機能／アミノ酸とタンパク質の代謝）						
14	タンパク質（タンパク質の検査）						
15	まとめ・期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（出席率）	合計
割合		60%	20%		10%	10%	100%
(補足)							
【教員紹介】							
自衛隊中央病院及び市ヶ谷共済組合診療所において、化学検査及び微生物学検査の臨床検査技師としての勤務歴あり。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】臨床検査学講座 臨床化学検査学 浦山 修 他 医歯薬出版							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門 必修	講義	臨床化学Ⅱ		大田和 伸裕	有	2 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
非タンパク性窒素、生体色素、酵素などの歴史的背景、体内代謝と臨床的意義測定原理について、および分析機器の取り扱い、精度管理について習得する。							
【講義概要】							
臨床化学は疾患の診断、治療方針の決定または予後の判定など臨床目的に応じた生体情報提供する学問および技術であり、分析化学、機器分析学、病態生化学、臨床医学を背景に進歩した学問である。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	非タンパク性窒素（生体内の非タンパク性窒素成分の生成、生体内の非タンパク性窒素成分の代謝）						
2	非タンパク性窒素（非タンパク性窒素成分の検査）						
3	生体色素（ヘム／生体色素の検査）						
4	酵素（酵素の基礎）						
5	酵素（酵素活性の測定）						
6	酵素（酵素の検査）						
7	酵素（酵素の検査）						
8	中間試験及び解説						
9	薬物・毒物（検査目的／生体内の薬物動態／血中薬物測定法／毒物・劇物の分析）						
10	ホルモン（ホルモンの種類と性質／ホルモンの作用と調節機序／内分泌臓器と内分泌検査）						
11	ビタミン（ビタミンの種類と性質／ビタミンの作用と分類）						
12	疾患マーカー（肺／感染症／心疾患／腎疾患）						
13	骨代謝マーカー）						
14	その他の検査（肝胆道機能検査／腎機能検査／脾機能検査／内分泌機能検査／消化管機能検査）						
15	まとめ・期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（出席率）	合計
割合		60%	20%		10%	10%	100%
(補足)							
【教員紹介】							
自衛隊中央病院及び市ヶ谷共済組合診療所において、化学検査及び微生物学検査の臨床検査技師としての勤務歴あり。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】臨床検査学講座 臨床化学検査学 浦山 修 他 医歯薬出版							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数
専門 必修	講義	臨床免疫検査学		新井 智子	有	2 単位 30 時間
【授業の到達目標及びテーマ】						
臨床免疫学で学んだ知識を基礎として、疾患毎にその検査に使用される免疫反応について、原理と特徴および検査法を理解する。						
【講義概要】						
図表を多用した教員作成の講義テキストを使用し、質疑応答を取り入れた 双方向授業を実施する。 テキストには空欄が設けてあり、講義に合わせ、空欄を埋めてテキストを完成させながら受講する形式で行う。						
回	授業計画及び学習の内容					
1	4/8	免疫電気泳動、M 蛋白				
2	4/15	免疫電気泳動の判定、免疫固定電気泳動				
3	4/22	温度依存性蛋白、腫瘍マーカー、基準範囲とカットオフ値				
4	5/13	臓器特異的自己免疫疾患				
5	5/20	全身性自己免疫疾患(1)				
6	5/27	全身性自己免疫疾患(2)、抗核抗体検査				
7	6/3	アレルギーとその検査				
8	6/10	まとめ、中間試験				
9	6/17	真菌感染症とその検査、細菌感染症とその検査(1)				
10	6/24	細菌感染症とその検査(2)				
11	7/1	ウイルス感染症とその検査(1)				
12	7/8	ウイルス感染症とその検査(2)				
13	7/15	ウイルス感染症とその検査(3)、ウイルス抗体検査法の種類と特徴				
14	9/2	免疫不全症とその検査(1)				
15	9/9	免疫不全症とその検査(2)、急性期反応性蛋白質				
16	9/16	まとめ、期末試験				
【成績評価方法】						
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）
割合		約85%				約15%
(補足)						
【教員紹介】						
虎の門病院で臨床検査技師として13年間検体検査業務に携わり、免疫学的検査の実務経験を有する。						
【教科書・参考文献】						
【教科書】「最新臨床検査学講座 免疫検査学」窪田 哲郎 著（医歯薬出版）						
【参考書】「病気がみえる 免疫・膠原病・感染症」医療情報科学研究所 編（メディックメディア）						

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数
専門 必修	実習	臨床化学・臨床免疫学実習		塚田・新井	有	1 単位 45 時間
【授業の到達目標及びテーマ】						
実習レポートの作成を通して、実習で得られた結果を客観的に捉えて的確に記載する能力、その記載を基に科学的な解析と評価を行う能力を修得することを目標とする。						
【講義概要】						
「臨床化学」「臨床免疫検査学」で学んだ種々の 検査法について、ヒト由来試料を用いて実践することで、実施方法や実施上の重要事項を理解し、各検査法の原理と特徴・実施方法・判定方法を修得する。 ※1回 2コマ						
回	授業計画及び学習の内容					
1	10/2	グルコース測定、添加回収試験、持続皮下グルコース測定装置 ※木曜日				
2	10/6	アルブミン・カルシウム測定、Ca Index 算出				
3	10/20	実習結果検討会				
4	11/10	総コレステロール・HDL-コレステロール・トリグリセライド測定、LDL-コレステロール算出				
5	11/17	LDH アイソザイム				
6	12/1	実習結果検討会				
7	12/8	遺伝子検査(1) A				
	12/15	遺伝子検査(1) B				
8	1/19	遺伝子検査(2) A				
	1/26	遺伝子検査(2) B				
9	2/2	実習結果検討会・臨床化学実習試験				
10	10/8	平板内二重免疫拡散法（Ouchterlony 法）、免疫電気泳動				
11	10/15	実習結果検討会				
12	10/22	ELISA 法による風疹抗体価測定				
13	10/29	梅毒血清反応（RPR 法・TPPA 法）法、イムノクロマトグラフィ法による HBs 抗体検査				
14	11/5	実習結果検討会				
15	11/12	臨床免疫学実習試験				
【成績評価方法】						
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（参加度）	合計
割合 (補足)	約30%		約60%		約10%	100%
【教員紹介】						
塚田敏彦：虎の門病院臨床検査部室長、稲田登戸病院臨床検査科技師長として30年の実務経験あり。 新井智子：虎の門病院で臨床検査技師として13年間検体検査業務に携わり、免疫学的検査の実務経験を有する。						
【教科書・参考文献】						
【教科書】「最新臨床検査学講座 臨床化学検査学」浦山 修 編（医歯薬出版） 「最新臨床検査学講座 免疫検査学」窪田 哲郎 編（医歯薬出版）						

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数
専門 必修	講義	遺伝子染色体検査学		塚田・関澤	有	2 単位 30 時間
【授業の到達目標及びテーマ】						
遺伝子の多型が体質と関連性をもつことや、遺伝子の異常が様々な疾患の原因となっていることを知り、それらを捉える遺伝子・染色体検査法の基礎を修得する。						
【講義概要】						
遺伝子および染色体に関連する基礎知識を講義で学んだ後、遺伝子検査と染色体検査の実習を実施する。						
回	授業計画及び学習の内容					
1	10/7 【塚田】 概論					
2	10/14 【塚田】 遺伝子の基礎知識(1)					
3	10/21 【塚田】 遺伝子の基礎知識(2)					
4	11/4 【塚田】 遺伝子異常と疾患					
5	11/11 【塚田】 遺伝子の検査法(1)					
6	11/18 【塚田】 遺伝子の検査法(1)					
7	11/25 【塚田】 試験および解説					
8	12/2 【関澤】 染色体の基礎知識(1)					
9	12/9 【関澤】 染色体の基礎知識(2)					
10	12/16 【関澤】 染色体異常と疾患(1)					
11	1/13 【関澤】 染色体異常と疾患(2)					
12	1/20 【関澤】 試験および解説					
13	1/27 【関澤】 染色体の検査					
14	2/17 【関澤】 染色体検査実習(1)(2) ※CPU使用					
15						
【成績評価方法】						
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合	70%		20%	10%		100%
(補足)						
【教員紹介】						
塚田敏彦：虎の門病院 臨床検査部室長、稲田登戸病院 臨床検査科 技師長 として計30年の実務経験あり。 関澤浩一：日赤医療センター染色体検査室での実務経験あり。臨床細胞遺伝学認定士。						
【教科書・参考文献】						
【教科書】「最新臨床検査講座 遺伝子・染色体検査学」東田修二 編著（医歯薬出版） 【参考書】「ポケットマスター臨床検査知識の整理 遺伝子・染色体検査学」大島利夫・藤田和博 編（医歯薬出版）						

東京電子専門学校

開講課程		開講学科	開講年度	履修対象
医療専門課程		臨床検査学科	2025	2年 前期
講義区分	授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験
専門 必修	講義	輸血移植検査学	新井 智子	有

【授業の到達目標及びテーマ】

輸血検査は、その結果が人命に直結する重要な検査であり、十分な知識と技術を備えることが必要となる。本講義では、移植医療に必要不可欠な基礎知識を修得したうえで、輸血検査の手順と手技・判定方法について理解することを目標とする。

【講義概要】

図表を多用した教員作成の講義テキストを使用し、質疑応答を取り入れた双方向授業を実施する。テキストには空欄が設けてあり、講義に合わせ、空欄を埋めてテキストを完成させながら受講する形式で行う。

回	授業計画及び学習の内容
1	4/10 輸血療法、献血の種類、献血血液に行う検査、血液製剤の種類、安全性対策
2	4/17 細胞保存液、輸血用血液製剤の種類と保管、血液製剤の準備・使用指針
3	4/24 ABO血液型(1)
4	5/1 ABO血液型(2)
5	5/22 その他の糖鎖抗原系血液型、Rh血液型(1)
6	5/29 Rh血液型(2)、その他の血液型
7	6/5 量的効果、稀な血液型、輸血前検査
8	6/12 ABO血液型検査
9	6/19 RhD血液型検査、不規則抗体スクリーニング検査
10	
11	6/26 中間試験、不規則抗体同定検査
12	
13	7/3 交差適合試験、タイプ&スクリーン検査、抗グロブリン試験
14	
15	7/10 新生児溶血性疾患、抗体の吸着と解離、自己免疫性溶血性貧血、輸血副作用(1)
16	
17	7/17 輸血副作用(2)、自己血輸血(静脈路への成分採血装置の接続・操作を含む)
18	
19	9/4 白血球の血液型、血小板の血液型
20	
21	9/11 臓器移植、造血幹細胞移植
22	
23	9/18 まとめ、期末試験

【成績評価方法】

評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他(参加度)	合計
割合 (補足)	約85%				約15%	100%

【教員紹介】

虎の門病院で臨床検査技師として13年間検体検査業務に携わり、免疫学的検査の実務経験を有する。

【教科書・参考文献】

【教科書】「最新臨床検査学講座 免疫検査学」窪田 哲郎 著(医歯薬出版)
 【参考書】「標準臨床検査学 免疫検査学」折笠 道昭 著(医学書院)

東京電子専門学校

開講課程			開講学科	開講年度		履修対象	
医療専門課程			臨床検査学科	2025		2 年 後期	
講義区分		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門	必修	実習	輸血検査学実習	新井・塚田	有	1 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
輸血検査法の手順や判定法を修得すること、得られた結果を客観的に捉えて的確に記載する能力および科学的な思考能力を修得することを目標とする。							
【講義概要】							
講義科目で学んだ輸血に関する種々の検査法について、ヒト由来試料を用いて実践し、的確な結果判定を行う力を身に着ける。 ※1～7回：1回2コマ							
回	授業計画及び学習の内容						
1	11/26 赤血球浮遊液の作成 AB0 血液型判定（スライド法・試験管法）						
2	12/3 熱解離試験 RhD 血液型検査						
3	12/10 実習結果検討会①						
4	12/17 不規則抗体スクリーニング						
5	1/14 不規則抗体同定検査						
6	1/21 交差適合試験						
7	1/28 実習結果検討会②						
8	2/4 まとめ、実習試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（参加度）	合計
割合		約30%		約60%		約10%	100%
(補足)							
【教員紹介】							
新井智子：虎の門病院で臨床検査技師として13年間検体検査業務に携わり、免疫学的検査の実務経験を有する。 塚田敏彦：虎の門病院臨床検査部室長、稲田登戸病院臨床検査科技師長として30年の実務経験あり。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】「臨床検査学講座 免疫検査学」窪田 哲郎 著（医歯薬出版） 【参考書】「輸血・移植検査 技術教本」一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 監修（丸善出版）							

東京電子専門学校

開講課程			開講学科	開講年度		履修対象	
医療専門課程			臨床検査学科	2025		2 年 前期	
講義区分		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門	必修	実習	臨床微生物検査学実習	須崎・大田和	有	2 単位 60 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
病因・生体防御検査学（臨床微生物学）感染症の起因となる主な微生物の性状、感染症の診断・予防・治療に関する検査法とその技術および結果の意義・評価 方法について理解を深める。							
【講義概要】							
各種培地への接種方法および正しく取り扱うための基本的手技（無菌操作）の習得および各種培地、検査からの同定、染色法（グラム染色・特殊染色）について学ぶ。 ※1回2コマ							
回	授業計画及び学習の内容						
1	ガイダンス（微生物検査学実習をするにあたって）、無菌操作、感染予防						
2 3	A 分離培養：通性嫌気性グラム陽性球菌						
2 3	B 分離培養：通性嫌気性グラム陽性球菌						
4 5	A 分離培養：腸内細菌科						
4 5	B 同定検査：腸内細菌科						
6 7	A 分離培養：ビブリオ属						
6 7	B 同定検査：ビブリオ属						
8 9	A 分離培養：ヘモフィルス属						
8 9	B 同定検査：ヘモフィルス属						
10 11	A 分離培養：ブドウ糖非発酵菌群、モラクセラ						
10 11	B 同定検査：ブドウ糖非発酵菌群、モラクセラ						
12 13	A 分離培養：嫌気性菌						
12 13	B 同定検査：嫌気性菌						
14 15	A 薬剤感受性検査（ディスク拡散法、E テスト、β ラクタマーゼ試験）、薬剤感受性検査判定						
14 15	B 薬剤感受性検査（ディスク拡散法、E テスト、β ラクタマーゼ試験）、薬剤感受性検査判定						
16	筆記試験、実技試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		80%			約20%		100%
(補足) 実習修了試験（筆記・実技試験）、平常点（実習態度、出欠）の総合評価							
【教員紹介】							
須崎：半年間の病院勤務後、アロカ(株)にてMEG・ラジオ波焼灼術の営業技術職として勤務。 大田和：自衛隊中央病院及び市ヶ谷共済組合診療所において、化学検査及び微生物学検査の臨床検査技師としての勤務。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】 臨床検査学講座 臨床微生物学 【参考書】 図解臨床細菌検査							

東京電子専門学校

開講課程			開講学科	開講年度		履修対象	
医療専門課程			臨床検査学科	2025		2 年 前期	
講義区分		授業形態	授業科目名	担当教員	実務経験	単位・時間数	
専門	必修	講義	生理機能検査学Ⅲ	阿部 俊介	有	2 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
既に習得した心電図の知識を掘り下げていき、緊急対応の必要性についても判断できるようにする。 また、その他循環器領域の生理機能検査、特に臨床的に重要な心臓超音波検査の知識習得を目標とする。							
【講義概要】							
前半では心電図の復習及び 応用的な 異常波形、その他の心電図検査（運動負荷心電図・ホルター心電図等）について学び、 後半では心臓超音波検査を中心としたその他の循環器検査（動脈硬化検査等）について学習する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	心電図復習①						
2	心電図復習②・緊急対応を要する心電図について						
3	心電図各論 異常波形①						
4	心電図各論 異常波形②						
5	心電図各論 異常波形③						
6	心電図各論 異常波形④						
7	心電図各論 異常波形⑤						
8	その他心電図検査（運動負荷心電図・ホルター心電図・モニター心電図）						
9	まとめ・中間試験						
10	心臓超音波 基礎①						
11	心臓超音波 基礎②						
12	心臓超音波 臨床①						
13	心臓超音波 臨床②						
14	その他循環器検査（心音図検査）						
15	その他循環器検査（動脈硬化検査・血管内皮機能検査）						
16	期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		100%					100%
(補足)		授業態度不良者は減点					
【教員紹介】							
臨床検査技師として浴風会病院で主に心電図検査・心臓超音波検査などの循環器系検査に従事していた。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】大島一太「これならわかる！心電図の読み方」ナツメ社 東條尚 他「最新臨床検査学講座 生理機能検査学 第 2 版」医歯薬出版							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門	必修	講義	生理機能検査学Ⅳ		荒井 健一	有	2 単位 30 時間
【授業の到達目標及びテーマ】							
画像検査（造影超音波検査も含む）・感覚機能検査に係る仕組みについて理解し、検査の理論と実際を修得し結果の解析と評価について学修する。また、検査の緊急対応についても学ぶ。							
【講義概要】							
総論では、検査対象器の生理解剖学の復習を行う。各論では、各検査の画像の成り立ちを学び、検査手技・禁忌事項・アーチファクト・各症例の 所見・診断を学ぶ。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	超音波検査の基礎①（原理・装置の構成・プローブの仕組み測定法・表示方法・安全管理）						
2	超音波検査の基礎②（パルスドプラ・連続波ドプラ・カラードプラ・エラストグラフィ・アーチファクト）						
3	腹部・脈管・体表臓器の解剖生理及び超音波検査の基礎（意義・前処置・基本走査法）について						
4	腹部超音波検査①（肝臓の正常及び疾患像）						
5	腹部超音波検査②（胆嚢の正常及び疾患像・膵臓の正常及び疾患像・脾臓疾患像）						
6	腹部超音波検査③（腎泌尿器正常及び疾患像・骨盤腔の正常及び疾患像）						
7	腹部超音波検査④（消化管正常及び疾患像）						
8	中間試験及び解説						
9	体表超音波検査①（甲状腺の正常及び疾患像・乳腺の正常及び疾患像）						
10	体表超音波検査②（血管の正常及び疾患像）						
11	造影超音波検査①（適応と禁忌・使用薬剤・緊急対応・注入方法）						
12	造影超音波検査②（操作手技・実症例）						
13	磁気共鳴検査（原理・装置の構成・検査法・造影剤・禁忌事項）						
14	磁気共鳴検査（脳・脊髄・脊椎・腹部・骨盤の正常・疾患像）						
15	熱画像検査（原理・装置の構成）						
16	期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（	合計
割合		100%					100%
(補足)							
【教員紹介】							
臨床検査技師として亀田総合病院で約8年間勤務経験有り。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】最新臨床検査学講座 生理機能検査学 第2版 東條 尚 他 医歯薬出版							
【参考書】3DCTで解剖から学ぶ 腹部エコーの基本とコツ 岡庭信司 羊土社							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門 必修	実習	生理機能検査学実習		荒井・阿部	有	2 単位 60 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
生理機能検査学で学んだ知識をより確かなものとし、生理機能検査学（実習）を学ぶ上での助けとなることを目標とする。							
【講義概要】							
実習は実技を重視して、臨床検査技師が日常行う検査を重点に置いて行う。できるだけ多くの生理検査機器を使用し、生体現象を測定するための基本を学ぶ。 ※1回2コマ							
回	授業計画及び学習の内容						
1	(荒井①・B2) ガイダンス、脳波・呼吸・聴力眼底検査-1 / (阿部①・B1) ガイダンス、心臓超音波検査-1						
2	(荒井①・B1) ガイダンス、脳波・呼吸・聴力眼底検査-1 / (阿部①・B2) ガイダンス、心臓超音波検査-1						
1	(荒井①・A2) ガイダンス、脳波・呼吸・聴力眼底検査-1 / (阿部①・A1) ガイダンス、心臓超音波検査-1						
2	(荒井①・A1) ガイダンス、脳波・呼吸・聴力眼底検査-1 / (阿部①・A2) ガイダンス、心臓超音波検査-1						
3	(荒井②・B2) 脳波・呼吸・聴力眼底検査-2 / (阿部②・B1) 心臓超音波検査-2						
4	(荒井②・B1) 脳波・呼吸・聴力眼底検査-2 / (阿部②・B2) 心臓超音波検査-2						
3	(荒井②・A2) 脳波・呼吸・聴力眼底検査-2 / (阿部②・A1) 心臓超音波検査-2						
4	(荒井②・A1) 脳波・呼吸・聴力眼底検査-2 / (阿部②・A2) 心臓超音波検査-2						
5	(荒井③・B2) 脳波・呼吸・聴力眼底検査-3 / (阿部③・B1) 心臓超音波検査-3						
6	(荒井③・B1) 実技試験 / (阿部③・B2) 心臓超音波検査-4						
5	(荒井③・A2) 脳波・呼吸・聴力眼底検査-3 / (阿部③・A1) 心臓超音波検査-3						
6	(荒井③・A1) 実技試験 / (阿部③・A2) 心臓超音波検査-4						
7	(荒井④・B2) 腹部超音波検査-1 / (阿部④・B1) 心電図検検査-1						
8	(荒井④・B1) 腹部超音波検査-1 / (阿部④・B2) 心電図検検査-1						
7	(荒井④・A2) 腹部超音波検査-1 / (阿部④・A1) 心電図検検査-1						
8	(荒井④・A1) 腹部超音波検査-1 / (阿部④・A2) 心電図検検査-1						
9	(荒井⑤・B2) 腹部超音波検査-2 / (阿部⑤・B1) 心電図検検査-2						
10	(荒井⑤・B1) 腹部超音波検査-2 / (阿部⑤・B2) 心電図検検査-2						
9	(荒井⑤・A2) 腹部超音波検査-2 / (阿部⑤・A1) 心電図検検査-2						
10	(荒井⑤・A1) 腹部超音波検査-2 / (阿部⑤・A2) 心電図検検査-2						
11	(荒井⑥・B2) 腹部超音波検査-2 / (阿部⑥・B1) 心電図検検査-2						
12	(荒井⑥・B1) 腹部超音波検査-2 / (阿部⑥・B2) 心電図検検査-2						
11	(荒井⑥・A2) 腹部超音波検査-2 / (阿部⑥・A1) 心電図検検査-2						
12	(荒井⑥・A1) 腹部超音波検査-2 / (阿部⑥・A2) 心電図検検査-2						
13	(荒井⑦・B2) 腹部超音波検査-3 / (阿部⑦・B1) 心電図検検査-3、ABI・PWV-1						
14	(荒井⑦・B1) 腹部超音波検査-3 / (阿部⑦・B2) 心電図検検査-3、ABI・PWV-1						
13	(荒井⑦・A2) 腹部超音波検査-3 / (阿部⑦・A1) 心電図検検査-3、ABI・PWV-1						
14	(荒井⑦・A1) 腹部超音波検査-3 / (阿部⑦・A2) 心電図検検査-3、ABI・PWV-1						
15	(荒井⑧・B2) 頸部および下肢超音波検査-3 / (阿部⑧・B1) 心電図検検査-3、ABI・PWV-2						
16	(荒井⑧・B1) 頸部および下肢超音波検査-3 / (阿部⑧・B2) 心電図検検査-3、ABI・PWV-2						
15	(荒井⑧・A2) 頸部および下肢超音波検査-3 / (阿部⑧・A1) 心電図検検査-3、ABI・PWV-2						
16	(荒井⑧・A1) 頸部および下肢超音波検査-3 / (阿部⑧・A2) 心電図検検査-3、ABI・PWV-2						
17	(荒井⑨・B2) 筆記および実技試験 / (阿部⑨・B1) 心電図検検査実技試験						
18	(荒井⑨・B1) 筆記および実技試験 / (阿部⑨・B2) 心電図検検査実技試験						
17	(荒井⑨・A2) 筆記および実技試験 / (阿部⑨・A1) 心電図検検査実技試験						
18	(荒井⑨・A1) 筆記および実技試験 / (阿部⑨・A2) 心電図検検査実技試験						
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（ ）	合計
割合		30%		50%	20%		100%
(補足)							
【教員紹介】							
荒井 亀田総合病院で検診業務および超音波検査技師として勤務経験有り。 阿部 臨床検査技師として浴風会病院で主に心電図検査・心臓超音波検査などの循環器系検査に従事していた。							
【教科書・参考文献】							
生理機能検査学・講義資料							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 前期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門 必修	講義	予防医学総論		塚田 敏彦	有	1 単位 15 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
予防医学にはどのようなものがあるかを知り、予防医学の重要性を理解する。 ヒトを取り巻く自然や社会環境因子と健康との関連性を探求できる基盤を養う。							
【講義概要】							
近年注目度が高まっている予防医学の様々な分野について、最新のエビデンスをふまえ、科学的および医療経済の視点から講義する。動画および PowerPoint を用いる。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	環境因子と健康との関連・経済効果						
2	疾病の予防・早期発見						
3	0 次予防						
4	1 次・2 次・3 次予防						
5	代替医療						
6	予防医学とサプリメント						
7	アンチエイジング学会におけるトピックス						
8	まとめ・期末試験（公衆衛生も含む国家試験に準ずる問題）						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（	合計
割合		80%			20%		100%
(補足)							
【教員紹介】							
KKR虎の門病院臨床検査部室長、その後 KKR稲田登戸病院臨床検査科技師長出向として30年の実務経験あり。 冲中成人病研究所研究員、順天堂大学臨床病学教室協力研究員：臨床検査技師・医学博士							
【教科書・参考文献】							
プリント配布							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門 必修	講義	関係法規		須崎 由美	無	1 単位 15 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
医療従事者はどんな法律に基づいて仕事をしているかを理解する。臨床検査技師法とはどんな法律か、医療過誤を防ぐにはどうしたらよいか考える力を身につける。							
【講義概要】							
法の概念、我が国の法の形式と種類など法の基礎知識、臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律を主にして、医療法をはじめ関連法規を修得する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	法の概念・臨床検査技師と法律 臨床検査技師を取り巻く環境と法律のかかわり						
2	臨床検査技師等に関する法律① 総則						
3	臨床検査技師等に関する法律② 免許・試験						
4	臨床検査技師等に関する法律③ 業務等						
5	臨床検査技師等に関する法律④ 衛生検査所・他						
6	臨床検査技師等に関する法律④ 衛生検査所・他						
7	臨床検査と医療過誤						
8	まとめ・試験						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（出席点）	合計
割合		80%				20%	100%
(補足)							
【教員紹介】							
半年間の病院勤務後、アロカ(株)にてMEG・ラジオ波焼灼術の営業技術職として勤務。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】臨床検査学講座 関係法規（2023年版）							

東京電子専門学校

開講課程			開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程			臨床検査学科		2025		2 年 前期	
講義区分		授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・ 時間数	
専門	必修	講義	医療安全管理学		北山 茂	有	2 単位 30 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】								
医療の質の向上と安全の確保は患者とその家族にとって最重要事項であり、医療機関が取り組むべき最優先課題である。 感染管理及び医療安全と患者接遇に配慮して、現場で実施できる知識・技術を修得することを目標とする。								
【講義概要】								
患者とのかかわり方やチーム医療の一員としての役割を学修する。臨床検査技師の責任及び業務範囲を理解し、リスクマネジメントや感染対策、安全な検体採取の方法や検査手技を修得する。								
回	授業計画及び学習の内容							
1	患者接遇 1 ・技師による検査説明・チーム医療への技師のかかわり							
2	患者接遇 2 ・患者接遇・コミュニケーションスキル							
3	リスクマネジメント 1 ・臨床検査と医療事故・インシデントレポート・アクシデントレポート							
4	リスクマネジメント 2 ・患者取り違え・検体取り違え・患者・家族への対応							
5	感染対策 1 ・感染対策の意義と考え方・感染対策の基本的概念							
6	感染対策 2 ・手指衛生・個人防護具の使用法・標準予防策・感染経路別予防策							
7	感染対策 3 ・ワクチン等による予防・アウトブレイク ・感染対策業務の組織化と実践・院内感染対策マニュアル							
8	採血関連手技 ・採血（標準採血法）※静脈路確保・電解質輸液の注入を含む・患者への配慮							
9	検査手技 ・静脈路への成分採血装置の接続と操作 ・超音波検査における静脈路からの造影剤注入 ・持続皮下グルコース測定 ・運動誘発電位検査，体性感覚誘発電位検査に係る電極装着，脱着 ・直腸肛門機能検査							
10	検査手技 ・静脈路への成分採血装置の接続と操作 ・超音波検査における静脈路からの造影剤注入 ・持続皮下グルコース測定 ・運動誘発電位検査，体性感覚誘発電位検査に係る電極装着，脱着 ・直腸肛門機能検査							
11	検体採取 1 ・総論・検体採取の意義・注意事項・注意点・検体採取の意義と技術							
12	検体採取 2 ・鼻腔(経鼻)，咽頭(経口)等からの検体採取・気管カニューレ内部からの喀痰吸引							
13	検体採取 3 ・皮膚，肛門からの検体採取・消化管内視鏡検査に伴う検体採取							
14	検体採取 4 ・鼻腔・咽頭等からの検体採取の実践・気管カニューレ内部からの喀痰吸引の実践							
15	試験及び解説							
【成績評価方法】								
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（	合計	
割合		90%			10%		100%	
(補足)								
【教員紹介】								
東京女子医科大学病院で臨床検査技師として6年間勤務経験有り。								
【教科書・参考文献】								
【教科書】最新臨床検査学講座 医療安全管理学（医歯薬出版） 【参考書】臨床検査技師のための医療安全管理教本（じほう）								

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 後期	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
独自科目 必修	講義	バイオ技術講座		大田和 伸裕	有	1 単位 15 時間	
【授業の到達目標及びテーマ】							
中級バイオ技術者認定試験に合格することを到達目標とする。							
【講義概要】							
バイオ技術の基礎となる分子生物学および細胞生物学について講義すると共に、バイオ技術について解説する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	ガイダンス						
2	分子生物学（細胞と遺伝・核酸・遺伝子、遺伝情報・タンパク質・生体防御）						
3	バイオテクノロジー総論（機器の取り扱い、バイオテクニカルターム、環境と安全性）						
4	遺伝子工学①（組換えDNAと遺伝子解析 その 1 核酸の構造～遺伝子クローニング）						
5	遺伝子工学②（組換えDNAと遺伝子解析 その 2 核酸の抽出～遺伝子産物の検出）						
6	遺伝子工学③（細胞工学）						
7	微生物学（種類と特徴・構造と機能・代謝、増殖・変異・利用）						
8	演習（全科目の模擬問題）						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【成績評価方法】							
評価項目		試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（認定試験）	合計
割合 （補足）			20%		20%	60%	100%
【教員紹介】							
自衛隊中央病院及び市ヶ谷共済組合診療所において、化学検査及び微生物学検査の臨床検査技師としての勤務歴あり。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】サイエンスビュー生物総合資料 長野敬 他 実教出版 中級バイオ技術者認定試験対策問題集（2023年12月試験対応版）							

東京電子専門学校

開講課程		開講学科		開講年度		履修対象	
医療専門課程		臨床検査学科		2025		2 年 通年	
講義区分	授業形態	授業科目名		担当教員	実務経験	単位・時間数	
独自科目 必修	講義	国家試験準備講座		学科教全員	有	2 単位	30 時間
【授業の到達目標及びテーマ】							
国家試験問題のレベルを知り、これまで学んできた臨床検査に関する基礎知識を、正答を導くプロセスに応用するための基礎力を身につける。							
【講義概要】							
各領域の担当教員が、過去の国家試験等を題材とし、問題毎に関連する基礎知識や正答を導く際の考え方やポイントを解説する。 《中間試験》全教員分を統一試験として実施する。 《期末試験》科目毎に実施する。							
回	授業計画及び学習の内容						
1	臨床検査(医学)総論 臨床生理学(医用工学含む) 臨床化学 病理組織細胞学 臨床血液学 臨床免疫学(輸血含む) 公衆衛生学						
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8	中間試験						
9	臨床検査(医学)総論 臨床生理学(医用工学含む) 臨床化学 病理組織細胞学 臨床血液学 臨床免疫学(輸血含む) 公衆衛生学						
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17	期末試験						
【成績評価方法】							
評価項目	試験・課題	小テスト	レポート	平常点	その他（	）	合計
割合	約85%			約15%			100%
(補足)							
【教員紹介】							
学科教員全員：臨床検査技師の国家資格を保有している。							
【教科書・参考文献】							
【教科書】「クエスチョン・バンク臨床検査技師 2023-24 」（メディックメディア） 【参考書】「臨床検査技師 国家試験問題注解 2024年度版」（金原出版）							